

12月28日(木)～2018年1月31日(水) 満月セレクト

－ 今回のセレクトター ご紹介 －
Music Selector : 長谷川 純子



長谷川 純子

1981年神奈川県生まれ。ビートルズをきっかけに、60～70年代の音楽を聴き漁る。大学在学中からFMラジオ局InterFMに勤務し「Barakan Beat」等の番組を担当した。現在はコンサートホールでの事業を担当する傍ら、ピーター・バラカン氏が監修する音楽フェスティバル「Peter Barakan's LIVE MAGIC!」にも携わる。

今回のセレクトCD

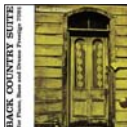
1.



Kitty, Daisy & Lewis / Superscope (Sunday Best / BRC-552)

ロンドン出身の3姉弟によるロックンロール・バンド、キティー・デイジー&ルイスの最新作。約10年前にデビューした頃は3人とまだまだ10代で、あどけなさが残る表情がステージに立つと一変、曲によってヴォーカルや楽器を替え、1950・60年代の雰囲気を感じ出しながらキラキラと自信に満ちた演奏を繰り広げ、とんでもない子たちが現れた!と驚いたものです。すでに大人の余裕すら感じるこの新作を携え、1月下旬には2年ぶりの来日公演もあります。

2.



Mose Allison / Back Country Suite (Prestige / UCCO-5291)

数多くのミュージシャンに影響を与えたジャズ・ピアニスト、モーズ・アリソンのデビュー作。1957年に録音され、故郷ミシシッピに思いを馳せた「組曲」が傑作。なかでも”Young Man Blues” (組曲では”Blues”というタイトル)は、イギリスのロック・バンド、ザ・フーがカバーし、ライブの定番曲としたことでも有名。クールでユーモア溢れる演奏と歌声は、時代やジャンルを超えた色褪せない魅力があります。

3.



Billie Joe + Norah / Foreverly (Reprise / WPCR-15480)

ノラ・ジョーンズとロック・バンド、グリーン・デイのフロントマン、ビリー・ジョー・アームストロングが、アメリカの兄弟デュオ、エヴァリー・ブラザーズの作品「Songs For Our Daddy Taught Us」をカバーしたアルバム。1920・30年代にポピュラーだったフォークやトラッド、カントリーの曲を集めた作品で、普段は異なるジャンルを歌う2人のハーモニーがナチュラルに重なり合い、それぞれの新たな魅力を発見できます。

4.



Laura Mvula / Laura Mvula With Metropol (RCA / 88843098102)

イギリスのシンガー・ソングライター、ローラ・マヴューラ。デビュー・アルバム「Sing To The Moon」の楽曲を、オランダの名門メトロポール・オーケストラを迎えてライブ録音した作品。曲作りの時からオーケストラの音が重ねられることを願っていたというローラのしなやかな歌声が、52名から成る世界で最も規模が大きいオーケストラの壮大で優雅なサウンドによって、新しい年を煌びやかに彩ってくれます。

5.



Zero 7 / When It Falls (Sony / SICP547)

2001年頃にレディオヘッドやレニー・クラヴィッツのリミックスを手がけ、ヨーロッパやアメリカで一気にブレイクを果たしたイギリスの2人組プロデューサー・ユニット、ZERO7のセカンド・アルバム。スタイリッシュながらもオーガニックであたたかみのある曲調が心地良く、その世界観にどんどん引き込まれ、アルバム全体を飽きることなく聞かせてくれます。寒い冬の朝にゆったりと聴きたくなる1枚。